

新作 「江戸ごのみ踊り童絵」

江戸時代の日本の町々での子供たちの遊びが日本舞踊の中に生かされているのを皆様にご覧いただきたく、このようにまとめてみました。二百年前から市井の人たちから愛された日本の古典舞踊、邦楽の中で子供たちの遊びが踊りとなり、曲で語られています。そして今日、その姿は作品の中で生きつづけ、愛されつづけております。今回はこの舞台で目白小の小桜組と青山兄弟の11名が「子守」「玉屋」「手習子」「禿」の古典を踊らせていただきます。

花柳千代 構成・踊の指導 花柳千慶・花柳けい

い、清元 「子守」より……子守お糸・内田紡希

お杉・杉田結香  
おゆう・平山優樺

ろ、清元 「玉屋」より……たか兄い・青山昂史

とき坊・青山季生  
ゆき大兄い・平山優耀

は、長唄 「手習子」より……おはる・大淵 遥

おなつ・福田夏音  
おさよ・門田小百合

に、長唄 「羽根の禿」より……ちいちゃん・福田智咲

ゆめちゃん・平山優寧

ほ、義太夫 「野崎村」にて……皆さん落さないで！

—ケン玉で腕だめし—

○せりふ たか兄い 「あーいつもの独楽売りが来た」 ケン玉の子供たち舞台の前に出て並び、「早く来て〜」と呼ぶ。